

「自然災害伝承碑」の代表事例

洪水

(茨城県常総市)



平成27年(2015)9月10日、関東地方から東北地方にかけて多数の線状降水帯が次々と発生し、鬼怒川で堤防が決壊した。市域の約3分の1が浸水、決壊地点では建物が流失し、浸水が解消するまでに10日間を要した。

土砂災害

(岐阜県白川町)



昭和43年(1968)8月17日夜半から18日未明に襲った集中豪雨で土石流が発生し、観光バス2台が巻き込まれ飛騨川へ転落、乗客乗員104名が犠牲となった。他にも中濃地方で14名の犠牲者を出した。

土砂災害

(広島県坂町)



昭和40年(1907)7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。

土砂災害

(福島県白河市)



東日本大震災(2011)では白河市は震度6強の強い揺れを観測し、ここ葉ノ木平地区では、山の崩落で13人のほか、萱根地区では瓦の落下で1人、大信隈戸では土砂崩れで1人が巻き込まれ、市内合わせて15名が亡くなった。

地震

(福岡県福岡市)



平成17年(2005)3月20日、福岡市玄界灘を震源とするマグニチュード7.0、震度6弱の地震により、道路が崖崩れなどにより通行止めになり、家屋被害も発生した。

地震

(新潟県小千谷市)



平成16年(2004)10月23日夕刻に中越大地震が発生し、空前絶後の災禍となった。一瞬にして山容は激変し、農地・道路・水源・電気通信等あらゆる生活基盤が破壊される中、家屋全壊で児童3名の命が奪われた。

津波

(沖縄県名護市)



昭和35年(1960)5月南米チリでM8.5の地震が起き大津波が発生、津波は太平洋を横断し日本近海を襲った。当地には数回に亘り襲来。津波高5mにも及び大浦橋が全壊、護岸も決壊した。

津波

(和歌山県田辺市)



安政南海地震(1854)と昭和南海地震(1946)による津波災害を忘れないため、津波潮位を刻んでいる。カニのはさみをモチーフとしたデザインで、ハサミの先端が当時の津波潮位。

津波

(徳島県牟岐町)



牟岐町は昭和南海地震(1946)では54名が亡くなるなど、安政南海地震(1854)以来の大被害を受けた。瞬時にして荒廃の町と化した痛ましい記録を刻み、後世への教訓とするため建てられた。

火山災害

(長野県王滝村)



平成26年(2014)9月27日、御嶽山が噴火。人知を超えた自然の容赦ない猛威により登山者らが巻き込まれ、58名の尊い命が奪われ、5名の足取り途絶え生還叶わぬ、火山史上希にみる噴火災害となった。

火山災害

(長崎県島原市)



1990年雲仙普賢岳の噴火が始まり1991年6月3日発生した大火砕流により消防団員12名を含む43人の命が奪われた。